



スズクグループ環境社会報告書 2016

Sustainability Report



メジャー・カンパニーとして 高度循環型社会の中核を担う

静脈メジャーになる——。現在、スズトクグループが掲げる大きな目標です。

これからの社会において、資源の再利用は、ますます不可欠な取り組みとなります。使い終わった多くの資源が再び利用され、私たちの暮らしを支えてくれる「高度循環型社会」の実現は、現在を生きる私たち全員に課された大きな宿題です。

しかし、残念ながら、現在の日本には、その担い手となれる中心的な企業、大きな発言力と影響力を持ち、国や自治体、動脈産業のさまざまな企業と協力しながら、変革を力強く推進していける静脈産業のメジャー・カンパニーが存在しません。

長年にわたり、総合リサイクル事業を展開してきたスズトクグループは、静脈メジャーとして高度循環型社会の大きな受け皿になる資質を十分に持っています。そのための体制づくりも着々と進めてきました。2015年の金属リサイクル6社との包括業務提携、そして、今年行なった大手廃棄物処理事業者との共同出資会社設立は、その代表的なものです。

もちろん、簡単な挑戦ではありませんが、日本のリサイクル業界における先行モデルをつくるためにも誰かがやらなければなりません。

スズトクグループは、社員一丸となって、この目標に向かって邁進してまいります。これからも変わらぬご支援のほど、よろしくお願いいたします。

スズトクホールディングス株式会社
代表取締役社長 グループCOO

松岡 直人

スズトクホールディングス株式会社
代表取締役会長 グループCEO

鈴木 孝雄

スズトクグループ3つの願い

「持続可能な社会をつくる」

「社会に信頼され、地域に貢献する」

「社員が誇れる会社になる」

リサイクルの未来を拓くため、今年度もスズトクグループはさまざまな取り組みを行ないました。本冊子では、事業活動の成果と、取り組みの具体的な内容についてグループが掲げる「3つの願い」とともに紹介します。

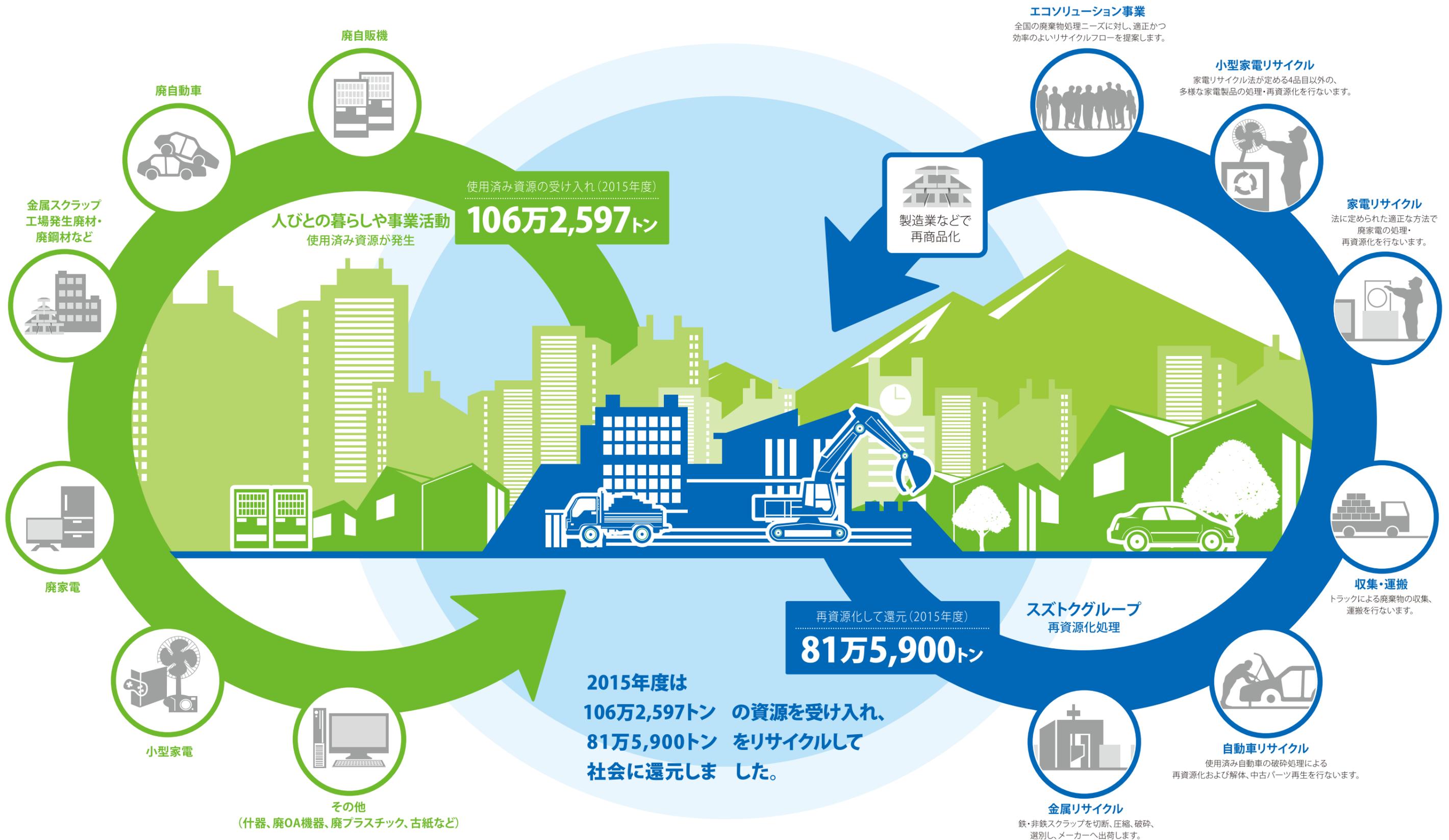
Contents

Top Commitment P2		
「持続可能な社会をつくる」	「社会に信頼され、地域に貢献する」	「社員が誇れる会社になる」
スズトクグループの事業 P4	コンプライアンスの徹底 P13	労働安全衛生の確保・推進 P18
2015年度 資源リサイクルの全体像 P6	Special Contents	Special Contents
環境マネジメントシステムについて P8	障がい者就労支援の取り組み P14	365days 現場の声 P20
Special Contents	Special Contents	Special Contents
「小型家電リサイクル」3年間の成果 P10	ふれあい掲示板2016 P16	THE SUZUTOKU TIMES P22
Special Contents		
2015年度導入の新設備 P12		スズトクグループ企業理念、概要・会社紹介 P23
		第三者意見 P27

スズクグループの事業

海外拠点や、共同出資会社とも連携しながら、グループ一丸となって総合リサイクル事業を展開。世界規模で高まる再資源化ニーズにお応えします。

毎年、日本では約4億トンもの産業廃棄物が排出されているといわれます。地球全体では、実に100億トンにもものぼるそうです。限られた資源を有効活用するうえでは、これらの廃棄物から使えるものを取り出し、再び社会に送り出す「リサイクル」が欠かせません。スズクグループは、長年培った高度な再資源化技術で、繰り返し資源を活用し続ける「高度循環型社会」の実現に貢献。豊かな地球環境を次世代へ残すための事業を展開しています。



2015年度 資源リサイクルの全体像

スズクグループは、1つでも多くの資源を、再び使える状態にして社会に還元することを事業の柱としています。同時に、事業活動で使用するエネルギーや、発生する残渣・二酸化炭素の量を可能な限り削減し、環境負荷も抑制しています。

グループ全体の受け入れ資源量および再生資源量 (カッコ内は前年度)

受け入れ資源量

●金属スクラップ	763,419 (740,200) t
●産業廃棄物	55,910 (46,600) t
●廃自動車	184,124 (191,600) t
●廃自販機	4,468 (6,500) t
●廃家電	44,388 (41,600) t
●小型家電	7,731 (—) t
●古紙	2,557 (2,700) t
●合計	1,062,597 (1,029,200) t

※2015年度から「小型家電」を集計品目に追加



再生資源量

●回収鉄	746,700 (801,500) t
●回収非鉄金属	51,700 (57,100) t
●製紙原料	3,200 (3,100) t
●その他 再資源化物	14,300 (14,600) t
●合計	815,900 (876,300) t

事業活動にともなう発生物

再資源化処理の過程で発生する「どうしてもリサイクル不可能なもの(残渣)」を、極力少なく抑えること。また、発生した残渣については、法に則った適正処理で環境への負荷を最小化すること。この2つも、総合リサイクル事業者であるスズクグループのミッションです。

グループでは、回収した残渣の処理を、適正処理を実施していることが確認された外部事業者へ委託しています。処理方法別の今年度の発生廃棄物量は右表のとおり。合計はほぼ前年並みとなりました。

発生廃棄物量と処理方法

処理方法	量 (カッコ内は前年度)
焼却	115,900 (110,900) t
埋立	39,900 (48,500) t
破壊(フロン)	200 (190) t
合計	156,000 (159,590) t

再資源化物の還元率 > 約 **84%** ※ を社会に還元

※還元率(%)は「再生資源量÷(再生資源量+発生廃棄量)×100」で算出

2015年度の環境投資

今年度のグループの環境投資額は17億8,500万円となり、昨年度比で約140%増となりました。これは主に、フェニックスメタル(株)での第二工場棟建設にともなう投資が影響しています。

2016年6月に完成した第二工場棟では、家電リサイクルの処理ラインを増設したほか、新たにダスト選別機も導入。2016年度の操業開始を目標に準備を進めています。これにより、一層の処理能力増大と再資源化率向上が図れる見込みです。

そのほか、中田屋(株)加須工場では、家電解体ラインに遮熱効果のある側壁などを設置し、作業環境の改善を図りました。

2015年度環境投資

区分	金額 (単位:百万円,カッコ内は前年度)	主な投資内容
公害防止	118 (40)	防音壁、発塵抑制装置
環境保全	12 (19)	空調設備
資源循環	1,655 (1,196)	工場棟、選別機、スクラップシャワー、シユレツダー設備
合計	1,785 (1,255)	

※詳細はP12で紹介しています。
 ※決算期の変更について:今年度から、グループ全事業会社の決算期を、スズクホールディングス(株)の決算期である6月末に揃えました。これにより、各社の環境投資額の集計期間は以下のように変わっています。
 スズクホールディングス(株) 2015/7/1~2016/6/30、(株)鈴徳 2015/3/1~2016/6/30、メタルリサイクル(株) 2015/3/1~2016/6/30、中田屋(株) 2014/11/1~2016/6/30、サニーメタル(株) 2015/4/1~2016/6/30、フェニックスメタル(株) 2015/4/1~2016/6/30、NNY(株) 2014/9/1~2016/6/30、イツモ(株) 2015/4/1~2016/6/30、(株)新生 2014/9/1~2016/6/30

事業活動に使用したエネルギー

処理設備が稼働するために必要なエネルギーや用水は、使用量が増えれば環境負荷を高める原因となります。そこでスズクグループでは随時、設備の稼働体制見直しや人員配置の最適化を行なうことで、エネルギーなどの使用量を抑制。事業活動による環境負荷を低減しています。今年度は、電力および都市ガス・LPG・アセチレンの使用量を前年度よりも削減しています。

事業所のエネルギー等使用量

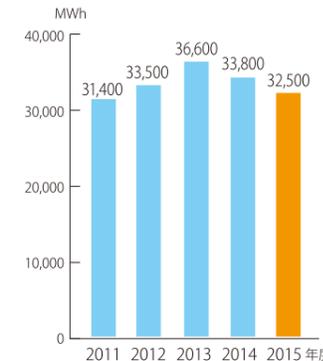
種類	量 (カッコ内は前年度)
電力	32,500 (33,800) MWh
軽油・灯油・ガソリン	3,500 (3,400) kL
都市ガス・LPG・アセチレン	36,500 (39,400) kg
用水	134,700 (115,600) m ³

省エネ法への対応

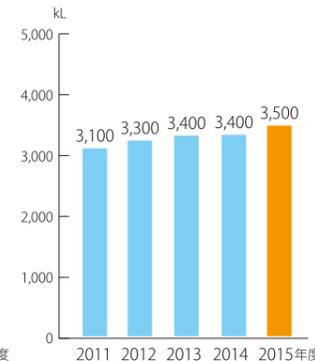
特定事業者	エネルギー使用量 (2015年度・原油換算、 カッコ内は前年度)
鈴徳	2,321 (2,432) kL
中田屋	2,755 (2,935) kL
フェニックスメタル	2,871 (2,858) kL

※省エネ法では、企業全体のエネルギー使用量が1,500kL/年以上の企業を「特定事業者」に指定。エネルギー使用の把握と管理を義務付けています。グループのうち、特定事業者に該当するのは上記3社です。

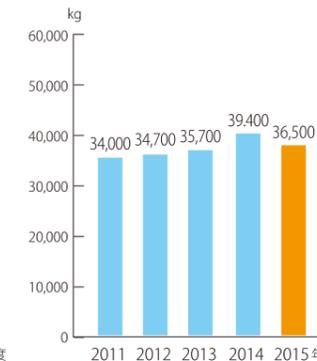
電力



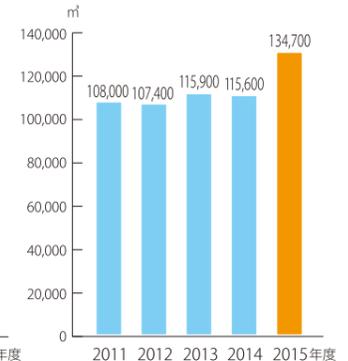
軽油・灯油・ガソリン



都市ガス・LPG・アセチレン



用水



事業活動で排出されるCO₂

稼働中の処理設備やトラックなどからは、エネルギーの燃焼による二酸化炭素(CO₂)が発生します。グループでは、これを削減する取り組みも継続的に行なっています。今年度、排出されたCO₂の量は25,100t-CO₂。昨年度より1,200t-CO₂の減少となり、2013年度以降3期連続での削減を達成しています。

CO₂排出量 (カッコ内は前年度)

エネルギー使用にともなうCO ₂ 排出量	25,100 (26,300) t-CO ₂
再生資源出荷量当たりのCO ₂ 排出量	0.031 (0.030) t-CO ₂ /t



※t-CO₂/t換算係数の変更について:2015年度より、電力のt-CO₂/tの換算係数が0.000530から0.000505に変更になっています(2015年11月の環境省の報道発表資料に基づく)。

環境マネジメントシステムについて

グループ全9社がISO14001に適合した環境マネジメントシステム(EMS)を整備し、明確な方針の下でリサイクル活動を行なっています。各拠点は、年度ごとに目標を設定し、EMSのさらなる高度化を目指したさまざまな取り組みを実施しています。(EMS:Environmental Management System)

スズクグループの環境方針

総合リサイクル事業は、日々の事業活動がそのまま環境保全に結びつく特性を持ちます。そこでスズクグループは、「本業の高度化」を基本理念として、EMSを運用しています。

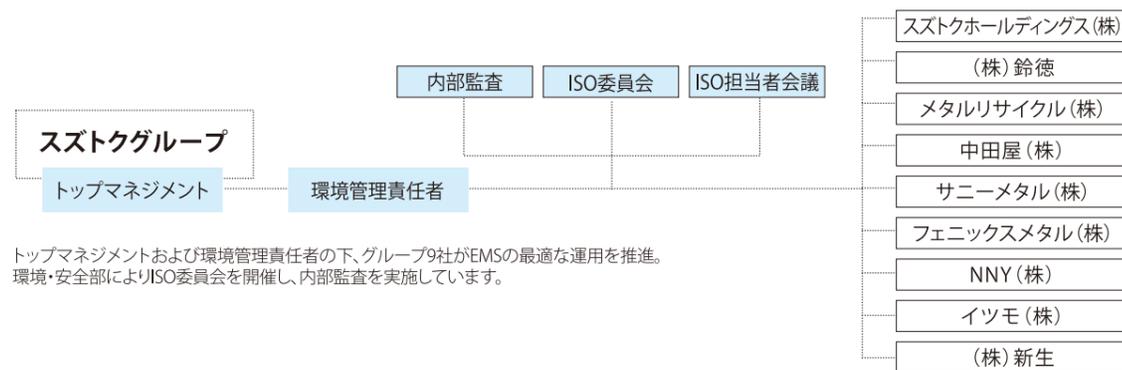
基本理念

地球温暖化を始めとする地球環境問題は深刻さを増し、それらへの対応は人類共通の重要課題となっている。このような状況に対し、スズクグループはリサイクル事業と廃棄物処理事業の推進により循環型社会の形成に貢献することが総合リサイクル業としての社会的使命であると認識し、地球環境及び地域環境の保全と環境負荷の低減に向けて積極的な施策を推進する。

基本方針

- 1 ISO14001に適合する環境マネジメントシステムを運用し、継続的に改善するとともに、汚染の予防に努める。
- 2 当グループの業務に関する法的要求事項及び当グループが同意するその他の要求事項を順守する。
- 3 業務を通じて一人ひとりが知恵を出し合い、以下に取り組む。
 - ① 資源回収の充実とリサイクルの高度化
 - ② 地域社会への貢献
 - ③ 省資源・省エネルギー・廃棄物の削減
 - ④ 安定した資源リサイクル

EMS運用のための組織体制



トップマネジメントおよび環境管理責任者の下、グループ9社がEMSの最適な運用を推進。環境・安全部によりISO委員会を開催し、内部監査を実施しています。

グループ全体のさまざまな取り組み

今年度もEMSの運用を高度化するため、各拠点の取り組みを視察する内部監査を行ないました。

この内部監査は、環境・安全部のスタッフが、全拠点に対して年1回の頻度で実施するもの。各拠点が設定した目標に対する達成状況や取り組み内容の確認、および遅れている場合は改善策の検討も現場とともに行なうほか、法改正などに関わる書類管理の状況も含めた、多岐にわたる確認を行なっています。

今年度の結果は、良好35(34)件、観察16(25)件、修正54(20)件、是正0(0)件でした(カッコ内は前年度)。



フロン回収

空調機器の冷媒などに使われるフロンは、適正回収が法律で義務づけられています。そのためスズクグループでは、家電や自販機を扱う全拠点が冷媒フロン回収装置を保有しています。グループの家電リサイクル工場は、高性能な新型の冷媒フロン回収装置を随時導入するなどしながら、一層の回収強化を図っています。

断熱材フロン回収装置／フェニックスメタル(株)

フェニックスメタル(株)は、冷媒フロン回収装置に加え、冷蔵庫の断熱材に含まれるフロンを回収するための装置も擁しています。



各拠点の目標設定と達成率(2015年度)

今年度もグループ各拠点が目標を設定し、環境保全活動に取り組みました。

環境方針	個々の事業所で掲げた主な目標	環境方針	個々の事業所で掲げた主な目標
省エネ・省資源・廃棄物削減	●事業系一般廃棄物(金属・紙)のリサイクル全1件	法令順守・汚染の予防	●荷受け禁止物の受け入れ禁止 ●フロン漏洩ゼロ ●1600tギロチンヤードの土間工事 ●有害・危険物質の受け入れ禁止全4件
達成率 100% 1件/1件		達成率 100% 4件/4件	
資源回収の充実とリサイクルの高度化	●シュレッダーダストからの金属回収率の向上 ●小型家電リサイクルの推進 ●受け入れ廃棄物契約の増大 ●パルスート設置と本稼働 ●非鉄研修会への参加ほか全22件	地域社会への貢献	●工場周辺の清掃実施 ●近隣住民からの騒音振動クレームゼロ ●“不法投棄のない街づくり”を目指し、見回り・清掃・会合へ参加 ●美化活動(花壇の整備など) ●地域の催しへの寄付ほか全14件
達成率 95.5% 21件/22件		達成率 100% 14件/14件	
安定した資源リサイクル(危機管理)	●重大災害ゼロ ●工場内美化活動 ●漏電の可能性のある箇所を改善 ●安全会議での問題抽出 ●事故件数を昨年度以下にほか全8件	継続的改善	●個人目標の設定 ●外部資格取得 ●トレーラー積載重量の向上 ●省エネ運転の意識向上ほか全13件
達成率 87.5% 7件/8件		達成率 100% 13件/13件	

全体の達成率 ▶ **96.8%** 60件/62件

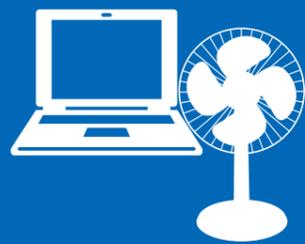
総合評価

2015年度は8社22拠点で62件の目標を設定し、目標達成は60件、未達成は2件、達成率は96.8%となりました。

目標の内訳を見ると、「資源回収の充実とリサイクルの高度化」が22件(35%)、「地域社会への貢献」14件(23%)、「継続的改善」13件(21%)、「安定した資源リサイクル」8件(13%)、「法令順守・汚染の予防」4件(6%)、「省エネ・省資源・廃棄物削減」の1件(2%)が挙げられています。

目標設定の傾向では、「資源回収の充実とリサイクルの高度化」「安定した資源リサイクル」といった業務に直結する目標が増加。各拠点が積極的に取り組みを進めたことで、全体の達成率も2014年度の95.2%を上回ることができました。

高度循環型社会の早期実現に向け、グループでは引き続きさまざまな環境活動の取り組みを行なってまいります。



認定事業者として取り組む「小型家電リサイクル」 実証事業3年間の成果



「小型家電リサイクル」とは

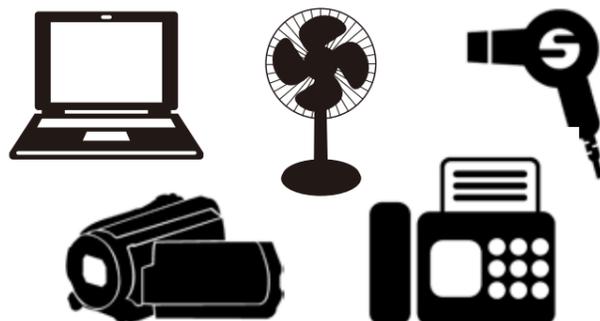
日本には、資源の有効活用を促進するための各種法律が存在しています。代表的なものが、「自動車リサイクル法」「家電リサイクル法」などですが、さらに多くの「社会で役目を終えたもの」を適正に再資源化して、希少金属（レアメタル）などの回収率を高めるため2013年4月に施行されたのが「小型家電リサイクル法」です。

この法律は、冷蔵庫、テレビ、エアコン、洗濯機という家電リサイクル法が定める4品目以外の多種多様な家電製品の再資源化処理について定めたもの。リサイクル事業者は、国の「認定事業者」となることで、小型家電の回収およびリサイクル処理を事業化できます。

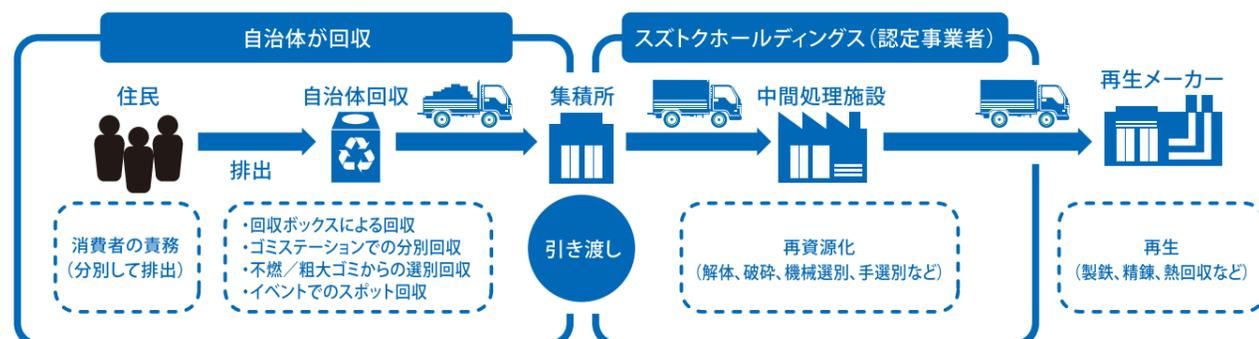
この法律の特徴は「促進法」だということです。すなわち強制ではなく参加型の法律です。新たな再資源化ニーズに応えることは、高度循環型社会の早期実現を目指す総合リサイクル事業者の責務と考え、スズクグループは、認定取得に向けた活動にいち早く着手しました。

対象となる小型家電

家電リサイクル法の指定4品目を除き、「電子レンジ」「ドライヤー」「AV機器」「パソコン」といった、電気や電池によって動く、家庭にあるほぼすべての家電製品が対象となります。



実証事業におけるスズクグループの事業範囲



住民からの回収方法は、スズクホールディングスの提案を基に自治体との協議で決定します。その後、収集した小型家電を、回収・運搬して適正に処理・再資源化します。



実証事業の取り組み概要

認定を取得した2013年から3年間、小型家電リサイクル事業を推進するかたわら、環境省の実証事業に参加して、数多くの自治体に対し小型家電リサイクルの仕組みの普及と定着に向けた支援を行ってきました。

この実証事業では、市町民への周知・啓発のチラシ類の作成や、小型家電を回収するボックスの製作とともに、回収方法ごとの回収量や品目をモニタリングするなど、効果的な回収スキームを自治体と構築しています。

特に、複数の回収方法ごとに品目・量を測定することで、どの回収方法がどういった品目を集めるのに有効かということがわかります。これらのデータは自治体にとって、リサイクルの仕組みを定着させるために大いに役立つものとなっています。

実証期間中には、環境省、参加自治体、スズクグループの各担当者が一堂に会する場として、複数回の全体会議を実施。進捗状況の報告を行なうとともに、回収量確保の課題や対応策を協議してもらいました。

また、スズクグループの回収担当者は、各自治体が行なうイベント回収にも積極的に参加。回収ブース設置や回収活動、市町民に向けたアンケート実施の支援などを通して、小型家電リサイクル法の仕組みを広く市町民に普及することができました。



PRツールの製作などを通じて小型家電リサイクルの普及・推進に努めたほか、自治体が行なうイベントでの回収活動も行ないました。



実証事業の成果

実証事業の年度ごとの実施自治体数は下表のとおりです。

このほか、自治体ごとの回収期間や品目別回収量といったより詳細な情報は、レポートにまとめて国に報告しています。同時に、スズクホールディングス内でも十分に精査しながら、翌年度以降の取り組みの改善に生かしました。結果、3年間合計での実施自治体数は、実証事業を行なった企業中でも最多クラスの「55」という成果につなげることができました。

この3年間に得たノウハウは、これから積極的に小型家電リサイクルに取り組もうとする自治体への提案材料として活用するなど、今後もスズクグループの小型家電リサイクル事業全体に生かしていきます。

小型家電リサイクル実証事業 実施自治体数

年度	自治体数	内訳 (都道府県コード順)
2013年度	30	栃木県：大田原市 群馬県：伊勢崎市 埼玉県：川越市、吉見町、川島町、ふじみ野市、埼玉西部環境保全組合、和光市、小川地区衛生組合、三芳町、飯能市、入間市、狭山市、北本市 千葉県：鋸南地区環境衛生組合、御宿町、長生郡市広域市町村圏組合、鴨川市、船橋市、浦安市 東京都：利島村、東大和市 神奈川県：座間市、横須賀市、秦野市 山梨県：甲府市 長野県：小布施町、信濃町 静岡県：掛川市、御殿場市
2014年度	14	埼玉県：蓮田白岡衛生組合、埼玉中部環境保全組合、朝霞市 千葉県：南房総市 栃木県：(宇都宮市、下野市、上三川町)*、那須町、芳賀町、市貝町 東京都：小平市、小笠原村 神奈川県：逗子市、三浦市 山梨県：南アルプス市 長野県：佐久穂町
2015年度	11	茨城県：さしま環境管理事務組合 栃木県：栃木市、鹿沼市、真岡市、益子町、茂木町 埼玉県：桶川市 山梨県：山梨市、中央市 静岡県：三島市、伊東市

*2市1町共同で実施のため1自治体としてカウント

総合リサイクル企業として、より効果的な仕組みを整備していく

認定事業者であるスズクホールディングスは、自ら処理工場を持っていないため、廃棄物処理を行なううえでは、グループ各社をはじめとする委託先事業者との連携が不可欠です。当初は、小型家電リサイクルの推進という新たな動きに対し、どこまで一緒に取り組んでいただけるかが不安要素でしたが、「より大きく社会に貢献したい」という思いの下、取り組みの意義や重要性を理解していただき、多くの事業会社に賛同いただくことができました。あらためて、心よりお礼申し上げます。

今後は、スズクグループにおける事業の1つの柱として、小型家電リサイクル事業を育てていきたいと考えています。まだ試行錯誤中ですが、回収をより効率的に行なう方法も模索しており、自治体を経由しない住民からの直接回収の仕組みも検討中です。

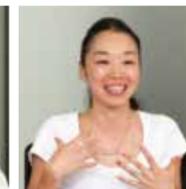
今後も、グループ各社・各拠点や、外部の委託先事業者との連携を強めとし、質の高いリサイクルサービスの実現を目指していきます。



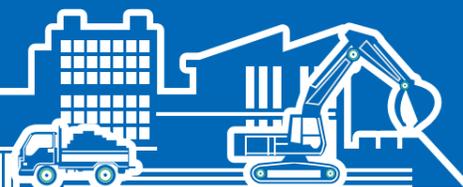
スズクホールディングス株式会社
社長付
内部監査担当 課長
山本 紀行



スズクホールディングス株式会社
事業開発部
小型家電リサイクル推進課 課長
兼イノベーション戦略担当
堀口 昌彦



スズクホールディングス株式会社
事業開発部
小型家電リサイクル推進課
廣瀬 有美



～さらなるリサイクルサービス向上のために～ 2015年度導入の新設備

リサイクルの現場は、さまざまな設備・機器に支えられています。

スズクグループは積極的な投資を行なうことで、環境整備を推進。リサイクルサービスの高度化につなげています。

ダスト選別を専門に行なう第二工場棟を新設／ フェニックスメタル(株)

今期、フェニックスメタルでは複数のリサイクル設備を導入。新たに建設した第二工場棟に集約しました。

主な目的は、廃棄物をシュレッダー処理したあとに出るダストの選別です。

破碎処理で出るダストは、処分業者に委託して適正処理しますが、従来はさまざまな材質が混在した状態で出荷していたため委託先が限られていました。そこで今回の施設では、あらかじめ「大きさ」「材質」などによって有価物を選別回収し、処分業者の要望に合ったダストにすることで処分先の窓口が広がり、処分費の低減が望めるようになりました。

工程では、まずふるい選別で大きさを仕分けします。その後、風力選別により軽いものを回収。さらに磁力選別、アルミ選別で磁性物や非鉄金属を回収し、最終的に残る「軽ダスト」も、トロンメル(円筒形のふるい機)で大きさごとに分ける仕組みとしています。設備を1つの建屋にまとめることで、連続した選別処理を可能にし、作業効率アップも図りました。

この体制により、有価物の回収量を増やすとともに、コスト削減も見込めると期待しています。



風力選別機2台を新規導入／(株)鈴徳 児玉営業所

風を当てて軽いダストを吹き飛ばし、比重の重い非鉄金属だけを取り出す「風力選別機」。回収可能な有価物を増やし、収益増と環境負荷の低減につなげるため、児玉営業所では今期2台を新たに導入しました。導入に当たっては、2台を縦にレイアウトするという独自の配置で場内のスペースも節約しています。



作業場の熱中症対策、およびシュレッダーの粉塵発生を抑制する各種設備を導入／中田屋(株)加須工場

家電解体ラインでは、直射日光を防ぎ、屋根下の気温上昇を抑制するため、遮熱塗装の側壁を採用しました。同時に、排熱ファンも設置してこもった熱気を効率的に逃がす仕組みを実現。屋根を気化熱で冷やすための散水システムも導入し、涼しい作業環境づくりを進めました。

また同工場は、シュレッダー本体内に水を噴霧して粉塵発生を抑える「発塵抑制装置」も導入。作業場や工場周辺的环境負荷低減のほか、シュレッダー内の発火事故の予防にもつなげています。



在庫整理の棚を増設／メタルリサイクル(株)千葉営業所

廃自動車の各種パーツは、破碎され資源として再利用されるほか、そのまま中古パーツとしても再販されます。どちらのフローで処理するかは、相場などを踏まえて判断していますが、近年は、中古パーツへのニーズが高まっています。

そこで今期は、十分なパーツ在庫を保有するための棚を拡張。従来の約1.5倍の部品点数を収納できるようにしました。



工場棟の照明25台をLED照明に入れ替え／(株)新生

寿命が長く、消費電力も少ない、エコな明かりとして広まるLED照明。新生では、リサイクル作業を行なうエリアのすべての照明をLEDに切り替えました。

従来使ってきた水銀灯より照度も高く、より安全に作業できる環境が整いました。今後は、資材置き場などの照明も、順次LED化していく予定です。



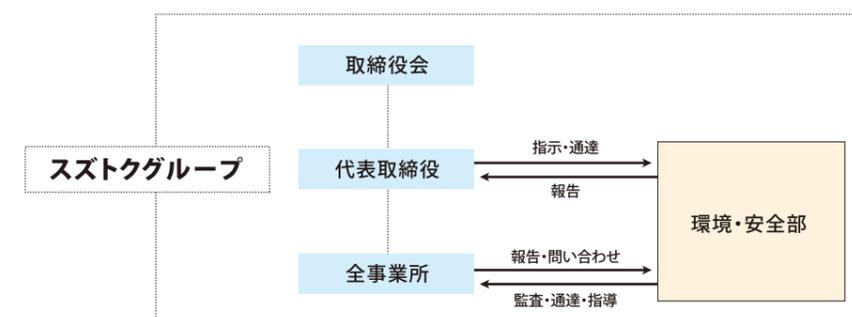
コンプライアンスの徹底

事業を継続し、社会への貢献度を高めるには、まず「正しいことを、当たり前に行なえる」企業である必要があります。そのためスズクグループでは、「コンプライアンス(法令遵守)」を業務上の最優先事項の1つに位置付け、内部監査や社員への法知識教育などを徹底しています。

グループの遵法を司る「環境・安全部」

全社のコンプライアンスを管理する部門が環境・安全部です。環境・安全部では、年に1回、全事業所を訪問してリサイクル処理状況を確認する「遵法監査」をはじめ、社員への法知識研修や、法律に関する各拠点からの問い合わせ対応などを実施。また、廃棄物関連の書類や、各拠点の事業許可証の期限などを一元的に管理することで、各拠点の業務を支援する役目も担っています。

コンプライアンス確保のための体制



環境・安全部は、全グループのコンプライアンスを管理する独立した部門として設置。監査の実施のほか、グループ各拠点からの法律に関する問い合わせにも対応しています。

2015年度の取り組み

遵法監査の結果について

遵法監査では、各事業所のリサイクル処理作業や廃棄物の保管、書類の管理などが法に則って行なわれているかを、チェックリストを基に確認。万一、不備があった場合は対策を指導し、後日再監査を行なうことで改善状況を把握しています。

また今年度は、遵法監査に立ち会う各拠点側の担当者を、環境・安全部側が指名する方式を採用しました。その際は、これまで参加経験のない社員を指名することで、緊張感を維持した内部監査を行なうとともに、全社員の遵法意識の強化にもつなげています。

今年度の指摘事項総数は61件。昨年度の38件に比べて23件の増加となりました。ただし、これは上記のような実施方式の変更や、監査内容を一部変えたことなどが要因であり、遵法レベルの低下とは直接結びつかないと考えています。

業務提携先企業の監査体制構築を支援

今年度は、包括業務提携を結ぶ企業の1社で同様の監査体制を確立するにあたり、これまで環境・安全部が培ったノウハウを提供しました。具体的には、スズクグループで使ってきたチェックリストを基に、詳細な監査用のリストを作成し提供。また実際の監査にも、環境・安全部のスタッフが同行して、アドバイスなどを行ないました。

そのほか、例年同様に処理委託先の訪問監査も実施。今年度は全61(新規15、継続46)の企業で、マニフェストや各種帳票の管理状況などを監査し、グループの排出事業者責任を担保しています。



遵法監査、社員への法知識教育

年に1回、各現場を訪問し、適正処理の状況を確認します。また環境・安全部では、グループ社員に対する法知識研修も定期的に行なっています。今年度は、環境・安全部にも3名の新人が配属されたため、正しい法知識を一日でも早く習得するための場としました。こうした人材育成の取り組みも、継続的に進んでいきます。



マニフェスト管理システム

スズクグループでは、産業廃棄物処理の管理伝票「マニフェスト」をシステムで一元管理し、現場の適正処理を支援しています。扱った品物の種類・数量などが確実に把握できるほか、必要に応じて過去の履歴も閲覧することが可能です。



障がいは「個性」 会社を支えるメンバーとして迎いたい ～(株)鈴徳、障がい者就労支援の取り組み～

スズクグループ各社は、障がい者の社会参加を促すための就労支援活動を継続的に行なっている。

なかでも、積極的な取り組みを展開しているのが(株)鈴徳である。

障がい者一人ひとりの「個性」を見極め、それに適した作業を任せることで、

安全かつスムーズに仕事の経験が積める場を提供している。ここでは、児玉・船橋の両営業所の取り組み内容を紹介する。

並外れた集中力や持続力は 障がい者ならではの強み

関東一円で金属リサイクル事業を営む(株)鈴徳は長年、障がい者を積極的に採用している。これについて、代表取締役社長の鈴木隆幸は次のように説明する。

「もうずいぶん前ですが、全国の同業者の工場を視察させてもらった際、障がい者が働いている現場のことがとても印象に残りました。というのも、彼らは品物を仕分ける能力が非常に高いのです。障がいがある方は、複数の作業を同時に行なうことは難しいかもしれませんが、1つのことに集中すれば確実にやり遂げてくれる。そのポテンシャルの高さに驚き、ぜひ当社でも戦力になってもらいたいと考えました」

そこで鈴木は、さっそくアイデアを実行に移した。児玉営業所では、2012年に取り組みを開始したのを皮切りに、2014年には特別支援学校からのインターン制度も開始。2015年には初めて障がい者の新卒採用も行なった。現在は特別支援学校、ハローワークの障がい者枠、NPO法人からの斡旋という3つのルートを通じて、さまざまなハンディキャップのある人を受け入れている。

「現在は3名が活躍中です。このうち、知的障がいと発達障がいのある2名は現場の作業員として、軽度の身体障がいがある1名は事務職員として働いています」(鈴木)

現場作業員の2名は、主にシュレッダーラインの中から、アル

ミ、銅、ステンレスといった有価物を選別回収する業務を担当しているが、高い集中力を発揮し、他の社員より効率よく作業を終える日も少なくない。

たとえば、ベルトコンベアでのピッキング作業は、流れるものを目で追ってしまい、気分が悪くなってしまう人もいます。ところが障がい者は、目の前にあるものだけに集中することができるため、気分も悪くならず、長時間、作業を続けられることが多いのだという。

「リサイクル工場には、彼らが得意とする作業がたくさんあります。戦力になる以上、雇わない理由はない。そういう意味で、私は「障がい」は「個性」だと考えています」と鈴木は言う。

理解と環境整備で 活躍できる現場をつくる

障がい者を迎え入れるために、児玉営業所は、人と仕組みの両面で適切なサポート体制を継続的に整備してきた。

まず、担当する作業は、ハンディの種類だけでなく、性格、さらには日々の体調に応じて選択、調整するようにしている。これは作業効率だけでなく、安全性を考えてのことだ。

また、集中力は障がい者の大きな武器となるが、ともすれば、それが諸刃の剣になることがある。過去には、作業に集中し過ぎて、疲れ果てて倒れるまで没頭してしまったり、トイレに行くのを忘れてしまったりしたケースがあったという。

このような経験を積み、児玉営業所では、休憩時間にはほかの社員が必ず声をかけるようにしているほか、休憩そのものを仕事の一環として「ルーチン化」する工夫を行ない、負荷が高まり過ぎないようにしている。トイレに関しては、より作業場に近い位置に増設した。

「彼らに活躍してもらうには、一人ひとりしっかりと向き合うことが大事。彼らを理解したうえで、無理にルールに従わせるのではなく、適切な環境を整えてあげるべきだと考えています」と鈴木は言う。

社会にはばたく土台となる それも支援の重要な役割

受け入れ開始から4年を経て、鈴徳で働く障がい者は、社会参加の機会や範囲を大きく拡大している。

児玉営業所で勤続3年になるある障がい者は現在、廃棄物をふるい機にかけける工程を1人で任されるまでになった。

また、鈴徳での経験を基に次のステージへステップアップする障がい者もいる。

複数の職場で経験を積むことは、障がい者が自立していくために重要な取り組みとなるが、その過程で、鈴徳で身につけたことが評価されることが多いという。

「当社でパートタイマーとして働いてくれた人が、他社で正社員雇用されるケースもたくさんあります。彼らが自立して働けるようになることは、私たちにとっても重要な目標。非常にうれしいことです。こうした実績は自治体からも高く評価され、児玉営業所は2014年2月以来、継続して「埼玉県障害者雇用優良事業所」の認証を受けている。

鈴徳では、2016年4月から、船橋営業所でも障がい者雇用をスタートした。具体的には、非鉄金属の選別工程に2名を新卒で採用。受け入れたのは、児玉で働く障がい者よりも、さらに重度の障がいのある人材だ。

「これまでの経験を生かすことで、より社会に貢献できるはずだと考えたからです。すでに数年の受け入れ実績を持つ企業として

(株)鈴徳 船橋営業所



空調設備の手解体

船橋営業所では、主に空調設備の配管を、手作業で被覆部分と中のパイプに分ける工程を担当している。工具も使いながら、二人一組で作業を行なう。

の責任もあります。もちろん、障がいの重さが違うので、児玉と同じやり方では通用しない場面もありますが、一つひとつ改善を目指しています」と鈴木は語る。

障がい者雇用の取り組みは、一般的にCSR(企業の社会的責任)の側面ばかりが強調されがちだ。しかし鈴徳では、一方的に支援するのではなく、「自社に必要な仲間」として迎え、戦力になってもらうことが重要だと考えている。「それが、真に偏見なく障がい者と接することだだと思います。今後、少子高齢化が進むなかでは、人材不足はより顕著になるでしょう。一人でも多くの方が社会にはばたき、私たちのような企業の力になってくれるよう、これからも取り組みを続けていきます」と鈴木は語った。

(株)鈴徳 児玉営業所

非鉄金属の選別



機械稼働前のメンテナンス



一般事務



処理設備を操作し、シュレッダーダストから非鉄金属を取り出す作業や、ベルトコンベアを流れる品物を選別する作業のほか、機械稼働前のメンテナンスも自自行なうなど、慣れた人の作業範囲は広い。また事務所では、一般事務作業を行なう内勤スタッフとしても1名が勤務している。

「埼玉県障害者雇用優良事業所」の
認証マーク



埼玉県障害者雇用優良事業所

鈴徳 児玉営業所

大型シュレッダーとシャーを備え、鉄・非鉄・廃棄物(一般廃棄物を含む)の幅広い品目に対応する。

■所在地:〒367-0244 埼玉県児玉郡神川町八日市647
■TEL:0495-77-3151
■FAX:0495-77-3847
■敷地面積:14,831.80㎡



鈴徳 船橋営業所

大型シャー2基を備え、グループ随一の処理能力と輸送の機動力を備える。鉄・非鉄・廃棄物を全般的に取り扱う。

■所在地:〒273-0015 千葉県船橋市日ノ出1-21-1
■TEL:047-431-3245
■FAX:047-434-3715
■敷地面積 9,917㎡



スズクグループ ふれあい掲示板2016

地域に愛され、親しまれる企業であるために、
グループ各拠点はさまざまな地域貢献活動を実施しています。
今年度の活動の一部をご紹介します。

栃木県のイベントで小型家電製品を回収



資源の有効活用をさらに促進するため、現在国が推進しているのが「小型家電リサイクル」です。この取り組みを、より多くの人びとに知ってもらうために、NNY(株)では、地元である栃木県の各自治体が開催する祭事や地域イベントに参加。のぼりやパネルで新しいリサイクルの仕組みをPRしたり、ブースを出展し、実際に使用済み小型家電を持ち込んでもらって回収するといった取り組みを行ないました。

また同社は、各自治体の希望に沿うかたちでリサイクル施設の見学や処理工程の説明も実施し、培った資源リサイクルの経験を基にアドバイスなどを行ないました。

今年度、これらの取り組みは合計22回実施。来年度以降は、さらに多様な取り組みを行なう予定です。



近隣事業者と共同で 河川を清掃



中田屋(株)加須工場では、恒例となった近隣の「会の川」の清掃活動に今年度も参加しました。

この活動は、中田屋(株)も参加する埼玉県再生資源事業協同組合 加須支部の各社が合同で毎年行なっているもの。今年度も加須工場の社員が参加しました。参加者は、実際に河川に入って川底の泥に埋まったビニール袋や空き缶などを拾ったほか、自転車などの大型のゴミをクレーン車で引き上げる手伝いも実施。きれいな川の維持に向けて、精いっぱい汗を流しました。



海外からの工場見学者を 受け入れ



公益財団法人地球環境センターでは、開発途上国のリサイクル技術向上に向けた研修ツアーを毎年実施しています。この研修では、スリランカやタンザニア、エジプトといった国々の技術者・公務員などが、約2か月にわたって日本に滞在。座学による研修や、行政施設および各地のゴミ処理・リサイクル工場の視察などを行なうことで、高度な再資源化技術を習得し、自国へ持ち帰っています。

今年度も、その見学先としてサニーマタル(株)が協力。4年目となった今回は、主にアジア、アフリカ地域から全11名が訪れ、自動車パーツのリサイクル工程やシュレッダー設備などを見学しました。



江の島見学会で 車いす利用者の移動をお手伝い



藤沢湘南ライオンズクラブが毎年開催している「車いす利用者のための江の島見学会」。今年度も行なわれたこの見学会に、(株)鈴徳 藤沢営業所の社員がボランティアスタッフとして参加しました。

江の島の中心部には展望台がありますが、そこまでの道のりは急こう配の坂道となっています。そこで、ボランティアスタッフが車いすを押したり、軽自動車を使ったりして移動介助を行ないながら、山頂までの道のりを進みました。途中の脇道にある草花や、登り切ったあとの眺望を見た参加者からは、歓声も上がっていました。

廃棄物資源循環学会の 特集会誌に寄稿



一般社団法人 廃棄物資源循環学会の依頼を受け、同法人が年に6回発行している学会誌に、資源リサイクル関連の記事を寄稿しました。

2015年11月に発行された第6号の特集は「リサイクルを成長産業とするための戦略」。このテーマの下、経済産業省や法律事務所、業界各社などの全7記事が掲載されましたが、当グループからはスズクホールディングス(株)執行役員の今井佳昭が記事を執筆しました。

「日本発! リサイクルメジャーの創出に向けて」と題した記事では、再資源化事業者が動脈産業との連携を強めていくことの重要性や、「リサイクルメジャー」を目指す当グループの方針などを紹介。今後も、こうした機会は積極的に生かし、メディアを通じた業界への情報発信を行なっていきます。

拠点周辺のゴミ拾い・清掃活動を実施



事業所拠点周辺の環境美化活動は、地域貢献という観点でももちろん、社員が日々気持ちよく働ける環境をつくるうえでも大切なことです。今年度も、グループ各社の社員が、自拠点周辺のゴミ拾い・清掃活動を行ないました。

たとえば、スズクホールディングス(株)本社では、恒例となった東京・大手町エリアのゴミ拾いを実施。代表取締役社長の松岡直人も参加し、社員とともに汗を流しました。

また同じくスズクホールディングス(株)のシステム室/環境・安全部でも、拠点のある東京・両国エリアで同様のゴミ拾いを実施。火ばさみとビニール袋を持った社員が周辺地域を練り歩き、路上や植込みに落ちている吸い殻、紙くずなどを収集しました。



休日の事業所で社員と 家族レクリエーションを開催

フェニックスメタル(株)では毎年、夏に社員やその家族、取引先などに幅広く声をかけ、バーベキューイベントを開催しています。

これは、社長である水口が「毎日忙しく働く社員に英気を養ってもらいたい」との思いで発案し、2010年以来、継続して行なっているもの。今年度は大人約40人、子供10人の50人ほどが参加しました。

コンロや食材・飲み物は、幹事が毎年一式用意してくれます。参加者は、レクリエーショングッズを持ち寄って、子供とともに楽しいひと時を過ごしました。

こうしたイベントは、普段はなかなかゆっくり話す機会がない社員同士が語り合う場となるほか、社員が家族サービスの場とすることもできる貴重な機会。これからも、継続していきたいと考えています。



労働安全衛生の確保・推進

業務を行なううえで最も重要なこと、それが「安全」です。スズクグループでは、全社員が安心して働ける環境をつくるため、安全管理体制や情報システムの整備、工場設備の拡充など、さまざまな施策を展開しています。

労働安全衛生体制の概要

企業活動や人びとの暮らしから排出される廃棄物は、日々刻々と変わります。品物が変われば処理方法も変わり、工場現場のリスク要因も変化します。そのため、これらのリスクを常に正しく把握することが、安全な手順で業務を行なううえでは欠かせません。

スズクグループは、そのための仕組みとして、全社をカバーした労働安全衛生管理体制を整備しています。スズクグループ安全委員長の下、SMS、NDY*の各グループが合同安全衛生遵法委員会を設置。各拠点の安全管理施策などを共有しているほか、設備インフラの整備なども実施。事故を未然に防ぐためのさまざまな取り組みを行っています。

※SMS…鈴鹿、メタルリサイクル、新生からなるグループ
※NDY…中田屋、サニーメタル、フェニックスメタル、NNY、イツモからなるグループ

SMS合同安全衛生遵法委員会



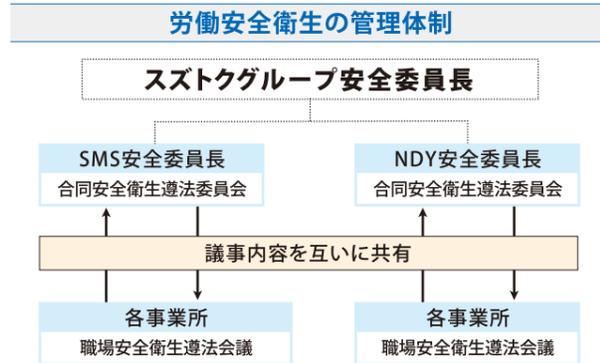
各社からメンバーが集まり、SMS、NDYそれぞれのグループごとに安全衛生遵法委員会を組織しています。3か月に1回のミーティングを実施し、安全管理上の重要項目などを共有し、全社に発信しています。

今年度の具体的な取り組み

NDYグループでは今年度、災害時対応ルールの見直しを実施。地震をはじめとする自然災害が業務中に発生しても、安全に避難できる／業務を継続できる体制の強化を図りました。その一例として、「稼働中の設備を止め、所定の場所に集まる」といった災害時の初期行動を再確認。標準となるルールを定めて各拠点が共有しています。

またSMSグループは、工場現場や事務所などの整理整頓を徹底する「赤フダ運動」を実施しました。これは、実施対象となる拠点を他拠点の社員が訪問し、事務用品や作業道具などの要・不要を客観的にチェックするもの。不要と思われるものに赤いシールを貼っていくことで、廃棄またはリユースに回す取り組みです。

これは、かねてメタルリサイクル(株)が行ってきた取り組みを、SMSグループ全体に拡大したものです。今後は、NDYグループへの展開も視野に入れ、継続的に実施していく予定です。



NDY合同安全衛生遵法委員会



消防訓練／中田屋(株)富士工場



万一の事故に備えて、各拠点が防災訓練を実施しました。

赤フダ運動



第三者のチェックを受けることで、気づきにくい設備・道具のムダや、現場の危険箇所などを発見・改善しています。

「ゼロ災害」継続日数が4079日に到達／中田屋(株)伊勢崎工場



朝礼

毎朝、全員でスローガンを読み上げ、安全意識を高めています。



他拠点の事故を共有

事故報告書を全員が回覧し、同様の事故を起こさないようにしています。

中田屋(株)伊勢崎工場では、2005年以来、11年間にわたって「人身無事故無災害」を継続しています。2016年6月30日時点で、その日数は、4079日に達しました。

この記録を途絶えさせることなく、無事故無災害を継続するために、同工場は今年度、「気をつけよう! 慣れと慢心 事故の元」というスローガンを設定。毎朝の朝礼で読み上げることで、「昨日まで大丈夫だったのだから、今日も大丈夫だろう」といった油断や心の緩みが生まれるのを防ぎ、日々、新たな気持ちで作業に取り組む体制をつくっています。

さらに、この朝礼では、前日の作業中に「ヒヤリ・ハット」事例がなかったかを確認。もしあったとすれば、「どうすれば回避できたのか」を全員で考え、話し合います。また、他拠点で起きてしまった事故の事例なども、安全衛生遵法委員会を通じて共有される事故報告書で把握し、事故を未然に防ぐための教訓として生かしています。

日々、安全に作業を行なう方法を社員全員で考え、話し合いを続けたことが、「ゼロ災害 4079日達成」という成果につながったわけですが、作業を行なうのはあくまでも「人間」です。頭で理解はしていても、ふとしたはずみで、事故につながるミスや思い違いが発生しないとも限りません。

そこで同工場は、担当者が定期的に所内を巡回し、作業員への声かけを行なう活動も実施。体調不良を感じていないか、必要な作業手順を確実に踏んでいるかなどを、確認し合うようにしています。

社員の安全を守り、無事故無災害のためにできることは、どんなことでも実行する。その覚悟で、日々の業務に取り組んでいます。

事故数の推移

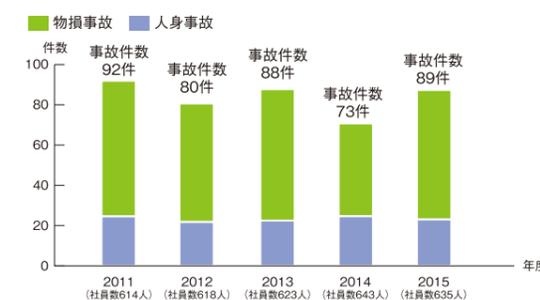
事故の再発を防ぐ「事故報告システム」

どれだけ手を打っても、起こってしまう事故はあります。大切なのは、繰り返し同じ事故を起こさないようにすること。スズクグループでは、過去の事故内容をデータベースに登録し、各拠点が再発防止に生かせる仕組みを備えています。これが「事故報告システム」です。

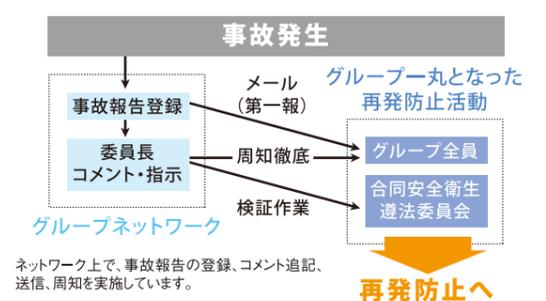
事故が発生した場合は、その内容をシステムに登録します。その際、全社員にメールで通知される仕組みとすることで、グループ全体の危機意識の維持・向上につなげています。

また、日時や場所、発生経緯、原因といった詳細はあとからシステム上で確認できるため、起こりがちな事故に対して重点的に対策を打つことが可能。合同安全衛生遵法委員会では、このデータベースの内容を基に、具体的な予防策に関する情報を定期的に全社へ発信しています。

事故数の推移



事故報告システム





365days 現場の声

グループ各社・各拠点では、社員の能力・技術が最大限発揮されるよう、職場環境や制度の整備など、さまざまな取り組みを進めています。ここでは、今年度、新たな取り組みに携わった社員、社内の各制度を利用した社員たちの声をご紹介します！



悩みや不安を1人で抱え込まないで！

社員向けの「こころの健康相談」窓口を開設

働きやすい職場環境づくりの一環として、「こころの健康相談」窓口を開設。グループ全社員に「こころ健康相談カード」を配布しました。これは、精神科医が在職している第三者機関と提携し、カードに記載された番号に電話をすることで、グループ社員がメンタルヘルスに関する相談をできるものです。身体の健康はもちろん、社員の「こころの健康」維持をサポートすることも、企業の責務。より働きやすい労働環境づくりのため、この制度は今後も継続していきます。

スズクホールディングス(株)

和田 実




リサイクルの最前線をお届けします！

情報発信でリサイクル業界の発展に貢献

スズクホールディングスのホームページ上で、私が責任編集するニュースレター、「じゅんかんニュース」の購読受付を開始しました。これは、私の前職が廃棄物管理・廃棄物処理のコンサルタントであり、セミナーの講師や雑誌での記事執筆なども行っていたことから、その経験を生かせないかと考えたのがきっかけです。内容は、リサイクル業界のトレンド解説や関連法の紹介などになる予定。お客様や協力会社の方役に立つ情報を発信していきますので、ぜひ登録してください！

スズクホールディングス(株)

堀口 昌澄




仕事と育児を両立できる環境に感謝！

「出産・育児休暇」で女性の活躍を支援

長男の出産にともない、2014年11月から2016年4月までの約1年半、「産前産後休暇」と「育児休暇」を継続して取得しました。休暇に入る前には「仕事の心配はせず、子育てに専念してね」、復職時には「戻ってきてくれてありがとう」と、温かい言葉をかけてもらって本当にうれしかったです。現在も、保育所へのお迎えなどのために時短勤務をさせてもらったり、子供の急病時にはサポートしてもらったりと、職場のみんなに助けられています。

中田屋(株) エコソリューション部

渡邊 真央



社外研修で得た知識を日々の業務に生かす！

社員がキャリアアップできる環境を用意

入社から9年。さらなるキャリアアップを目指し、複数の社外研修に参加しました。なかでも多くの気づきを得られたのが、経団連主催の「ロジカル・ライティングセミナー」です。ものごとを論理的に考え、文章にする技術は、企画書やメール、文書の作成時に役に立っています。当社には、こうした社外研修の情報を会社側で収集し、業務の一環として受講させてくれる仕組みがあります。非常にありがたい環境ですね。

中田屋(株) エコソリューション部

小島 俊寿




同じ仲間と働き続けられることがうれしい！

好きな仕事を続けられる「定年後再雇用制度」

定年退職後、再雇用制度を使って、船橋営業所で働き続けています。一時は家庭の事情で仕事を離れましたが、もう32年間もスズクグループの会社で働いていることになりましたね。今は仕入伝票の起票などを担当していて、後輩の子たちには「必要な伝票があとで見つけやすい整理のコツ」を教えたりしているのですが、長年勤めた場所で、同じ仲間と、同じ仕事を続けられるのはうれしいもの。毎日の仕事が、心にはりを与えてくれていると感じます。

(株) 鈴徳 船橋営業所

渡辺 久子



11年間無事故・19年間無違反を達成！

安全・遵法を推進する確認作業をルーチン化

私は、イツモに入社し13年間、11tトラックの運転手として、毎月1万kmほどの距離を走行していますが、今年度で「11年間無事故」「19年間無違反」を達成しました。「歩行者用の信号が点滅を始めたから、車用の信号もそろそろ変わるな」というように、さまざまな危険を予測しながら運転していることはもちろん、急加速、急発進を行わないようにし、民家の前ではスピードを緩めるなど、環境にも配慮した運転に努めています。今後も、無事故・無違反の記録を更新し続けたいと思います。

イツモ(株) 伊勢崎営業所

狩野 雅司

スズクグループの「イマ」がわかる

THE SUZUTOKU TIMES

東日本大震災の復興支援計画に参画 地場産業の活性化と雇用の安定を目指す

東日本大震災から5年半。未曾有の大災害が人びとの暮らしに与えた影響は大きく、現在も、復興に向けたさまざまな取り組みが続けられています。

被災地の人びとが以前のように豊かに暮らせる生活環境をつくり、維持していくには、地場の産業が活力を取り戻すことが非常に重要です。そこで、スズクホールディングスは、今期から被災地の産業活性化に向けた支援活動に参画しています。

「被災地で行なわれている復興支援策に、福島県・浜通り地域に最新技術の研究・実証などを行なう産業地域をつくろうというプロジェクトがあります。リサイクル技術も研究・実証の対象となっており、『ふくしま環境・リサイクル関連産業研究会』という組織が発足しました。スズクグループは、この研究会の事務局を任されています」と本件を担当する早川 知子は話します。

具体的に、研究会は、地元企業に対する誘致活動や、誘致後の具体的な事業化プロセスの検討、および支援を実施します。長年、総合リサイクル事業を行ってきたスズクグループには、リサイクル技術はもちろん、リサイクル事業者に適用される法律など、専門家ならではの助言が期待されています。

現在は、重点的に取り組む4つのリサイクルテーマを定め、それぞれのワーキンググループが、誘致活動を開始したところです。2020年までに複数の企業が事業を開始することを目標に掲げています。

「福島県には、まだ帰還困難区域や避難区域があり、その多くが解除のめども立っていません。住民の方たちが帰ってくるには、さまざまなハードルをクリアしなければなりません。『働く場所』も必要です。リサイクルは、現在の社会に必要な不可欠な事業ですから、誘致企業の事業化が成功すれば安定した雇用の確保にもつながるはず」と同じく本件を担当する中嶋 尚平は話します。

復興は、一朝一夕に成し得るものではありません。微力ながら、スズクグループも継続的に支援を続けていきます。



スズクホールディングス株式会社
事業開発部 事業開発課

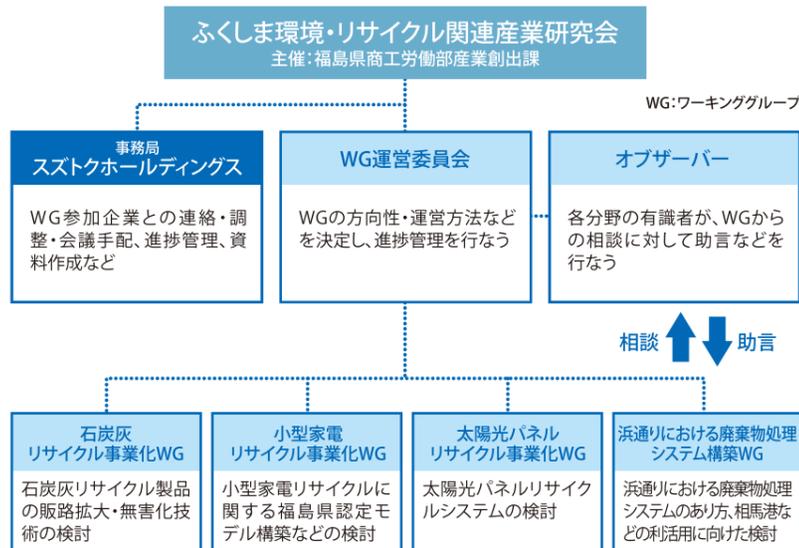
早川 知子



スズクホールディングス株式会社
経営企画部 経営戦略課 係長

中嶋 尚平

「ふくしま環境・リサイクル関連産業研究会」の組織概要



スズクホールディングスは運営をとりまとめる事務局として参画。現在は、4つのワーキンググループの参加企業による会議の手配、およびそれにもなう連絡・調整、進捗管理などを行なっています。



会議では、事務局として進行役を務めるほか、グループ各社がこれまで培ったリサイクルの知見やネットワークを生かしたアドバイスも適宜実施しています。

スズクグループ企業理念

事業活動を行なううえで果たすべき「4つの責任」。
グループではこれを常に忘れることなく、高度循環型社会の形成に貢献していきます。

1 お客様に対する責任

すべてのお客様・お取引先様との共存共栄を第一とします。そして、可能な限り質の高いサービス・品質で皆さまのニーズにお応えします。

2 社員に対する責任

社員を個人として尊重し、その能力・技術が最大限発揮できるよう、公正で風通しがよい組織、また安全で働きやすい職場環境をつくりまします。

3 社会に対する責任

常に社会の一員であることを自覚し、法令並びに社会ルールを順守して地域との共生を図ります。また環境配慮に努め、資源リサイクル事業を進めます。

4 株主に対する責任

バランスのとれた健全かつ安定した経営を続け、適正な利潤の確保と事業の発展に努め、株主に対して適正な配当を行います。

企業行動憲章 (一社)日本経済団体連合会 社会の信頼と共感を得るために

企業は、公正な競争を通じて付加価値を創出し、雇用を生み出すなど経済社会の発展を担うとともに、広く社会にとって有用な存在でなければならない。そのため企業は、次の10原則に基づき、国の内外において、人権を尊重し、関係法令、国際ルールおよびその精神を遵守しつつ、持続可能な社会の創造に向けて、高い倫理観をもって社会的責任を果たしていく。

- 社会的に有用で安全な商品・サービスを開発、提供し、消費者・顧客の満足と信頼を獲得する。
- 公正、透明、自由な競争ならびに適正な取引を行う。また、政治、行政との健全かつ正常な関係を保つ。
- 株主はもとより、広く社会とのコミュニケーションを行い、企業情報を積極的かつ公正に開示する。また、個人情報・顧客情報ははじめとする各種情報の保護・管理を徹底する。
- 従業員の多様性、人格、個性を尊重するとともに、安全で働きやすい環境を確保し、ゆとりと豊かさを実現する。
- 環境問題への取り組みは人類共通の課題であり、企業の存在と活動に必須の要件として、主体的に行動する。
- 「良き企業市民」として、積極的に社会貢献活動を行う。
- 市民社会の秩序や安全に脅威を与える反社会的勢力および団体とは断固として対決し、関係遮断を徹底する。
- 事業活動のグローバル化に対応し、各国・地域の法律の遵守、人権を含む各種の国際規範の尊重はもとより、文化や慣習、ステークホルダーの関心に配慮した経営を行い、当該国・地域の経済社会の発展に貢献する。
- 経営トップは、本憲章の精神の実現が自らの役割であることを認識し、率先垂範の上、社内ならびにグループ企業にその徹底を図るとともに、取引先にも促す。また、社内外の声を常時把握し、実効ある社内体制を確立する。
- 本憲章に反するような事態が発生したときには、経営トップ自らが問題解決にあたる姿勢を内外に明らかにし、原因究明、再発防止に努める。また、社会への迅速かつ的確な情報の公開と説明責任を遂行し、権限と責任を明確にした上、自らを含めて厳正な処分を行う。

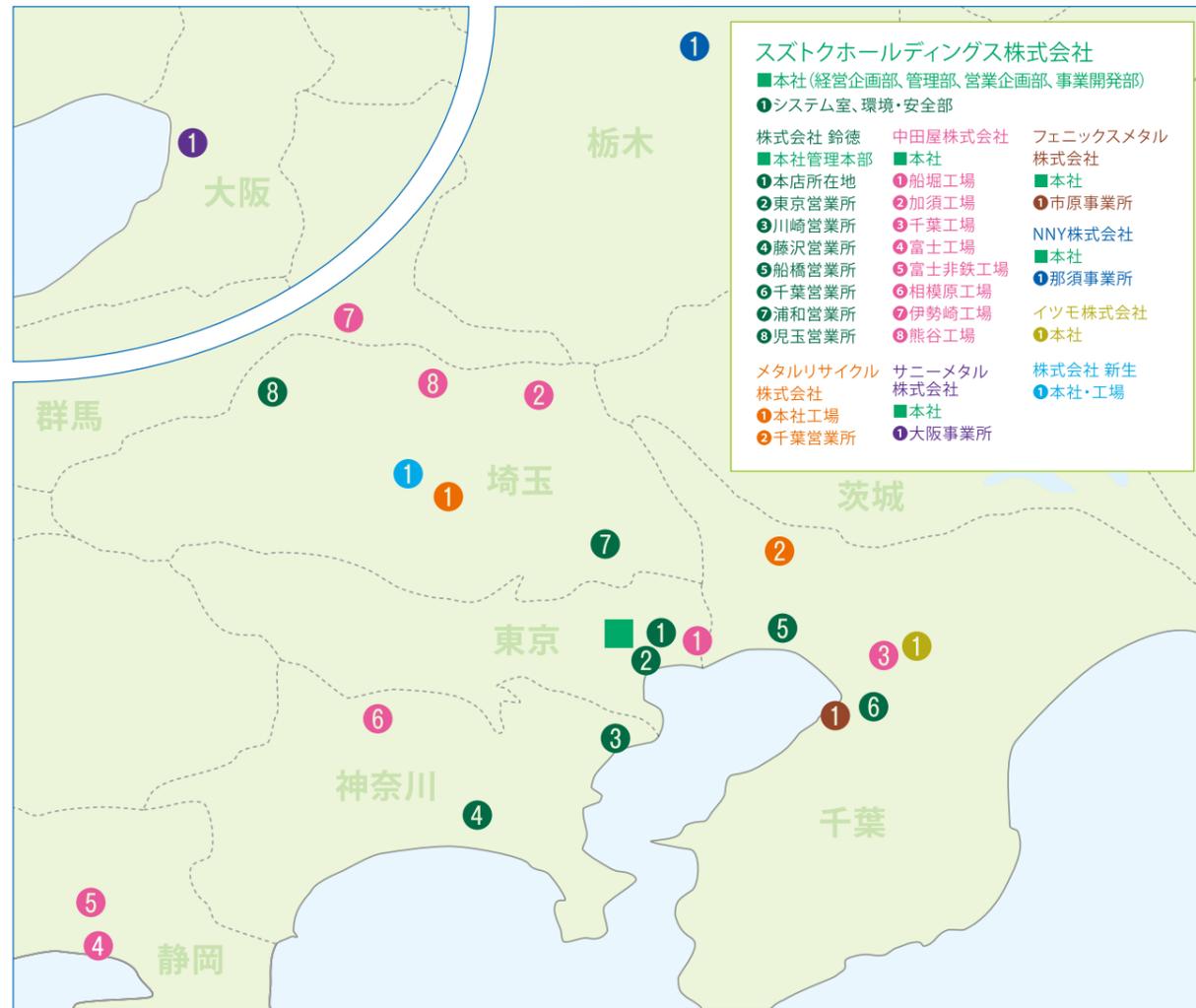
2010年7月より、スズクホールディングス(株)は日本経済団体連合会に加盟。当グループは、企業行動憲章の理念を順守し、循環型社会の一翼を担ってまいります。



スズトクグループ概要・会社紹介

全社のコンプライアンスなどを統括するスズトクホールディングスと、計8つの事業会社が互いに連携。お客様の悩みを解消する、高品質なリサイクルサービスを提供します。

グループ拠点一覧



株式会社 鈴徳

鉄を中心とする金属のリサイクル業を主としながら、一部、産業廃棄物処理も行なっています。創業112年の歴史と実績を基に、東京および近郊全7カ所の工場で事業を展開しています。

- 設立 1935年2月(創業1904年2月)
- 資本金 1,000万円
- 売上高 94億7,100万円(2016年2月期)
- 社員数 135名
- 本社管理本部 〒100-0004 東京都千代田区大手町1-7-2 東京サンケイビル15F
- 本店所在地 〒130-0021 東京都墨田区緑1-4-19
- TEL 03-3510-2361

取扱品目

金属スクラップ	317,558 t
産業廃棄物	12,552 t
廃自動車	846 t
廃自販機	233 t
小型家電	1,435 t

メタルリサイクル株式会社

金属のリサイクル、産業廃棄物処理に加え、使用済み自動車の引き取りから破砕までの一貫処理が可能。廃自動車から回収した中古パーツは一般のお客様向けに販売も行なっています。

- 設立 1999年11月
- 資本金 9,000万円
- 売上高 37億4,200万円(2016年2月期)
- 社員数 97名
- 本社 〒350-0166 埼玉県比企郡川島町戸守440
- TEL 049-297-2111

取扱品目

金属スクラップ	51,917 t
産業廃棄物	4,607 t
廃自動車	33,137 t
廃自販機	316 t
小型家電	3,469 t

中田屋株式会社

関東および静岡県の8拠点で、鉄・非鉄のリサイクル、産業廃棄物、廃自動車、廃自販機の処理、家電リサイクルなどを幅広く展開。そのほか、全国での廃棄物処理ネットワークを構築しています。

- 設立 1951年1月
- 資本金 1億円
- 売上高 130億2,700万円(2015年10月期)
- 社員数 171名
- 本社 〒100-0004 東京都千代田区大手町1-7-2 東京サンケイビル15F
- TEL 03-5204-1886

取扱品目

金属スクラップ	249,987 t
産業廃棄物	19,223 t
廃自動車	27,137 t
廃自販機	276 t
廃家電	11,039 t
小型家電	1,765 t
古紙	1,945 t

サニーメタル株式会社

グループ唯一の関西拠点。主に産業廃棄物、資源ゴミなどのリサイクルを行なうほか、家電リサイクルも実施しています。また、地域で唯一のシュレッダーを持つ事業所でもあります。

- 設立 1986年6月
- 資本金 1億円
- 売上高 17億3,000万円(2016年3月期)
- 社員数 35名
- 本社 〒100-0004 東京都千代田区大手町1-7-2 東京サンケイビル15F
- 事業所 〒554-0052 大阪府大阪市此花区常吉1-1-13
- TEL 06-6461-2818

取扱品目

金属スクラップ	10,280 t
産業廃棄物	5,673 t
廃自動車	11,946 t
廃自販機	1,700 t
廃家電	7,112 t
小型家電	7 t

フェニックスメタル株式会社

グループ随一の敷地面積を誇る事業所により、大量の品物の処理が可能。鉄・非鉄、産業廃棄物から家電まで、多彩な品目のリサイクル処理を行なっています。

- 設立 1987年12月
- 資本金 1億円
- 売上高 61億4,400万円(2016年3月期)
- 社員数 44名
- 本社 〒100-0004 東京都千代田区大手町1-7-2 東京サンケイビル15F
- 事業所 〒290-0067 千葉県市原市八幡海岸通7-3
- TEL 0436-43-1261

取扱品目

金属スクラップ	104,447 t
産業廃棄物	9,396 t
廃自動車	111,050 t
廃自販機	1,943 t
廃家電	20,347 t
小型家電	115 t

NNY株式会社

重液選別機によるミックスメタルの高精度な選別回収を行ない、グループのリサイクル率向上に貢献しています。そのほか、家電や廃プラスチックのリサイクルなども行なっています。

- 設立 1989年10月
- 資本金 5,000万円
- 売上高 18億5,800万円(2015年8月期)
- 社員数 30名
- 本社 〒100-0004 東京都千代田区大手町1-7-2 東京サンケイビル15F
- 事業所 〒324-0036 栃木県大田原市下石上1505-11
- TEL 0287-29-2777

取扱品目

金属スクラップ	1,581 t
ミックスメタル	26,041 t
産業廃棄物	473 t
廃自動車	8 t
廃家電	5,890 t
小型家電	900 t

スズトクホールディングス株式会社

事業会社8社を統括する持株会社。経営企画部、管理部、システム室、営業企画部、事業開発部、環境・安全部が設置されており、グループの事業統括、システム管理、コンプライアンスなどを担います。また、小型家電リサイクルの認定事業者として、グループへの処理委託も行なっています。

- 設立 2007年7月
- 資本金 1億円
- 売上高 8億3,900万円(2016年6月期)
- 社員数 28名
- 所在地
〒100-0004 東京都千代田区大手町1-7-2
東京サンケイビル15F(本社:経営企画部、管理部、営業企画部、事業開発部)
〒130-0021 東京都墨田区緑1-4-19(システム室、環境・安全部)
- 連絡先
TEL:03-5204-1890(本社代表)
E-Mail:holdings@suzutoku.co.jp

主な財務関連データ(グループ全体)

売上高*1	384億8,200万円
経常利益*1	2億1,900万円
従業員数*2	635人

*1
グループ事業会社8社の直近決算数値を単純合算したもの(経常利益はスズトクホールディングス株式会社を含むグループ全9社)

*2
2016年6月30日現在。経営層を含み、派遣・請負作業の従事者は除く

*取扱品目:2015年7月1日~2016年6月30日、保有輸送用車両:2016年6月30日現在

イツモ株式会社

グループの運送部門を担当。計98台の車両により、1都1府24県での産業廃棄物収集運搬業を展開しています。また、一般貨物自動車運送事業、第一種利用運送事業の許可も取得しています。

- 設立 1961年5月
- 資本金 5,000万円
- 売上高 12億4,700万円(2016年3月期)
- 社員数 73名
- 本社 〒263-0004 千葉県千葉市稲毛区六方町210
- TEL 043-423-3415

保有輸送用車両	
4トン車	1台
8トン車	13台
トラクタ	24台
セミトレーラー	25台
12～15トントラック	19台
10～15トントラック	16台
(計98台)	

株式会社 新生

関東を中心に1都8県で廃棄物収集運搬業を展開。そのほか、機密文書をはじめとする古紙の処理、木材のチップ化など、グループでも他に類を見ない品目の処理を行なっています。

- 設立 1993年10月
- 資本金 7,500万円
- 売上高 4億2,500万円(2015年8月期)
- 社員数 22名
- 本社 〒355-0812 埼玉県比企郡滑川町都25-21
- TEL 0493-57-2170

取扱品目	
金属スクラップ	1,608 t
産業廃棄物	3,986 t
古紙	612 t

保有輸送用車両	
2トン車	4台
4トン車	11台
10トン車	1台
(計16台)	

※取扱品目：2015年7月1日～2016年6月30日、保有輸送用車両：2016年6月30日現在

許認可・登録の概要(取得自治体数)

許認可等の内容	東京都優良性基準適合認定制度(産廃エキスパート)												
	産業廃棄物			一般廃棄物		自動車リサイクル			優良産廃処理業者認定制度				
	中間処分業	収集運搬業	特別管理収集運搬業	処分業	収集運搬業	引取業・フロン類回収業	解体業・破砕業	小型家電リサイクル拠点	第一種フロン類回収業	再生事業者登録	処分業	収集運搬業	処分業
株式会社 鈴徳 http://www.suzutoku.co.jp	6	8		1	1	1	2	7	4	7	6	6	1
メタルリサイクル株式会社 http://www.metal-r.co.jp	2	8	1		1	2	2	2	2	1	2	7	
中田屋株式会社 http://www.ndy.co.jp/	6	6				1	5	6	6	6	6	6	1
サニーメタル株式会社 http://www.sunny-metal.co.jp/	1	8					1	1	1	1	1	8	
フェニックスメタル株式会社 http://www.pmc.to	1	1		1			1	1	1	1	1	1	
NNY株式会社 http://www.nnycorp.jp/	1	3		1	3	1	1	1	1	1	1	3	
イツモ株式会社 http://www.suzutoku.co.jp/itm/		26											
株式会社 新生 http://www.shinsei-env.co.jp	1	8	5		1			1		1	1	11	

※許認可の内容は2016年6月末現在のものです。詳細はグループ各社ホームページをご参照ください。

スズトクグループ「環境社会報告書 2016」への第三者意見

内部のチェック制度が機能していると考えます。

内部のチェック制度において指摘がないことが良いことではありません。スズトクグループにおいては、違法監査における指摘事項が昨年度の38件から61件に増加したことが報告されています。緊張感のある監査を行なうため、2015年度から違法監査に立ち会う担当者を環境・安全側が指名するようにしています。また、環境マネジメントシステムの内部監査でも「観察」「修正」の指摘があった拠点のほうが多いことが報告されています。これらは、内部のチェック制度が機能していることを示していると考えます。

社会面での新しい取り組みが始まっています。

(株)鈴徳では、障がいのある従業員の並外れた集中力や持続力が、有価物の選別回収業務では強みになるとして、特別支援学校からのインターン制度の創設を経て、2015年から新卒採用も行なっています。障がいを「個性」と考え、戦力として積極的に迎え入れようという考え方は素晴らしいと思います。ぜひ、グループ全体の取り組みとなるよう、継続されることを期待します。

数値が悪化した場合の原因分析が必要です。

報告書では、前年度の実績と比較できるように工夫がなされていますが、特に、実績が悪化した場合は、理由を把握して併せて報告することが望ましいとします。たとえば、2015年度は前年度に比べ、廃棄物の受け入れ量が増加しているのに、リサイクル量は減少しています。また、用水の消費量が増加しています。リサイクル量の減少については、プラスチックなどリサイクルに適さない部分が多く含まれる廃棄物の受け入れ量が増えた結果ではないかとのことですが、これらについては、より深く原因分析を行ない、報告書に掲載することが必要でしょう。

また、各拠点が設定した目標のうち、未達成となった項目の内容と原因が記載されていません。これは、「経常利益」や「金属回収率」といった項目を前年度以上にするという目標について、市況の影響を受け未達成となったものとのことでした。本業を正面から目標とすることは、きわめて重要であり引き続き行なうべきものです。そして、報告書には、原因分析も併せて、取り組みの状況を記載することが望ましいと考えます。

「静脈メジャー」を目指すという方針が経営層から示されています。業績も上げ、環境面・社会面でも評価されるグループを目指して、引き続き取り組みを進めていただくことを期待します。

千葉大学大学院 人文社会科学部 教授

倉阪 秀史氏

1964年三重県生まれ。87年東京大学経済学部経済学科卒業。同年、環境庁入庁。環境基本法、環境影響評価法などの立案に従事。98年千葉大学法経学部助教授、2008年より同教授、2011年より現職。専門は、環境政策論、環境経済論。著書に『環境政策論【第3版】』(信山社)、『環境を守るほど経済は発展する』(朝日選書)、『環境と経済を再考する』(ナカニシヤ出版)、『政策・合意形成入門』(勁草書房)など。



編集方針

本報告書は、グループ各社の持株会社スズトクホールディングス(株)の設立(2007年7月2日)後、9回目の環境社会報告書となります。スズトクグループの企業理念である「4つの責任」に則り、環境、社会全般にわたる取り組みを包括的に記載しております。グループをご理解いただくための一助となるよう、今後もさらに報告内容の充実を図ってまいります。

■報告対象範囲

スズトクホールディングス(株)とグループ会社8社を報告対象としています(P24～26参照)。

■対象期間

2015年7月から2016年6月 ※これ以外の期間に集計した数値などは、その旨を該当ページ内に明記しました。

■次回発行予定

2017年9月を予定しています。

■本冊子に関するお問い合わせ

スズトクホールディングス株式会社 <http://www.suzutoku.co.jp/ho/> ※ご意見・ご感想については、メールアドレス holdings@suzutoku.co.jp までお寄せください。

